

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和6年度6月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

令和6年6月7日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

- 3日 ⑤事務局会議、校外生指連会議
- 5日 48 地区会長会議、衛自連総会
- 6日 主事連絡会
- 7日 令和コミュニティーク（中甕老福 C）
- 9日 旧西山小学校草刈り
- 16日 地区内清掃（河川愛護に振り替え）
- 17日 ⑥事務局会議
- 23日 自衛隊分屯基地創設記念日
- 24日 竜宮文化フェスタ実行委員会



中村史傳会長の叙勲お祝いの会

山地区コミュニティ協議会の現役会長中村史傳さんが、この度春の叙勲で瑞宝双光章の勲章を頂かれました。

このおめでたい喜びを皆で共有しようということでは有志が呼びかけ、5月31日コミセン2階でささやかな宴を開きました。

参加者は本人を入れて、40名と敬老会規模の人数が集まりました。

今回はコミュニティ行事ではないので会場代、二日にわたる調理室の使用料は皆の会費で負担しました。6時半からの宴だったので写真を撮る頃には大分帰られていたようです。おめでとうございます。どうぞい

ゴミ出しルールを守ろう

先月5月29日甕島島内におけるゴミ出しのルールについてという放送がありました。内容は次の通りです。

ゴミ出しについてルールを守っていないものが多く見られます。指定のゴミ袋でないもの、また、分類をしていないものは回収できません。決められた日に、決められた分類を行って、ゴミを出すようにお願いします。

当地においても分類できてないものがあるようです。

ごみステーションは摩川内市の補助を受けて、自治会の管理下にあり各班長さんたちが仕事されています。

ゴミ袋は衛自連で造られ各人の出すゴミの量で袋代を我々住民も負担する仕組みになっています。

また分別についてですが汚れているものは洗って出すか、生ごみに出すようお願いいたします。再生したものはまた我々に還ってきますので宜しくお願いします。

ゴミを残してステーションにおかれたら衛生的に良くありません。ちよつとした工夫で環境美化につとめましょう。

## 今年の運動会について

例年西山区民運動会に参加していた九州情報大学の平田毅先生から電話があり、今年から学校としての参加ができなくなりましたとの連絡が入りました。

引率の平田先生が定年で面倒を見ることができなくなりましたというものでした。従って名物のチャンコ鍋も無くなりません。

平成26年には韓国語を教えた韓国留学生や、女子相撲部員、軽音楽部いろんな学生がやってきてこの集落に活気を与えていたものです。

卒業生や希望者を募って今年もいらつしやるとのことでした。

替わって関西西山郷友会や出郷者の間で運動会に帰ろう運動があるようです。

一緒にゲームをしたり、競技に参加できるわけです。

昔手打ではやった還暦同窓会を故郷に帰ってやり、運動会に参加するという取り組みがあつて西山でも何年か続いたように記憶しています。

親戚の方がたずねたら9月の最終日曜日が運動会と教えてあげて下さい。

高齢化と人口減少が続く瀬々野浦に少しでも活気が出るようにしましょう。

## シリーズ15

### 故郷を深く浅く探る

能登半島大震災と棚田 中村史傳

能登半島を訪れたのは昭和六二年八月。

珠洲市馬縹(まつなぎ)町出身の同僚の空き家となっていた生家に三泊させてもらい奥能登の景色と海泳ぎを楽しませてもらった。大崎島という岩礁には「さざえ」が多くてつば焼きなど堪能した。今では密漁なのだが「能登はやさしや草木まで。」のたとえ通り、大目に見てくれる寛容な人々だった。同僚もそんな穏やかな人だった。

今年一月一日の能登大震災。輪島市と珠洲市の被害は甚大なものだった。同僚は三年ほど前に鬼籍に入り、同じのと出身の奥さんから、私が出した見舞状の返事には「何とか家の倒壊はまぬがれたが、家の隣の春日神社(横綱輪島の参拝記念碑があつた)の大鳥居が倒れた。夏ごろに落ち着いたらようすをみにゆきます。」とのこと。

この旅行で印象に残るのが輪島市の白米(しろよね)千枚田だ。

日本海の高風が吹き抜ける傾斜地に広がる棚田は息を呑む絶景だった。このけしきに見とれながらも次に浮かんだのが、この棚田の一枚一枚はまだ面積が広く

て、傾斜もゆるい。まだシンヌーラの大井手やノダケの棚田の方が面積も狭く傾斜も急だと愚にもつかない自慢心だった。

この白米千枚田もギシが崩れて大きな被害があつたという。だけど、大丈夫だったところに植え付けをし、修復して元の景観に戻すという。能登の人達の心意気である。

一方シンヌウラの村中からも見えたヒヤトコ、ムカイの棚田。

この六月は青々とした稲が風にゆれ、丹念にギシの草が刈られ実に爽やかな思いがした。夜はアマガエルの大合唱がひびいていた。

私の家の一番の穀倉だった屋床はすっかり山となり椎や榊(タブ)の林となり、一段一段のギシは崩れて急斜面となっていた。

人的都合で荒れ蘇りそうにないシンヌーラ棚田。天災にもめげず復興の意欲のある白米千枚田。先祖様はどう見ておられるか。

会育む古道八助の  
清一東さん  
の会長が  
純心大学へ  
八助の古道  
の宣伝に  
行かれて感  
触が良かった  
とのこと  
でした。ポ  
スターや  
申込用紙  
ができた  
ら是非送  
ってくだ  
さいと  
のこと  
でした。